

令和7年度 経営発達支援計画（実施結果概要）

当所は、本年度から5年間の第2期計画が認定され、小規模事業者が持続的に事業を発展させるために需要の動向や自らの強み等を分析し、新たな需要を獲得するために商工会議所がこれまで行ってきた経営改善普及事業に、小規模事業者の経営の発達に資する支援を実施することとなった。

令和7年度は、当初の計画どおり伴走型補助金実行型が採択され、商品開発・改良、マーケティング、店内レイアウトなど専門家派遣による販路・売上拡大、生産性向上を目指し、小規模事業者5者の支援を実施した。また、12月には支援した5者からの声などから市内中心部商業施設でのテストマーケティングとなる応援販売会の開催につながった。

今年度事業の主な概要

1. 小樽市経済動向調査の実施 四半期毎 調査対象258事業者
2. 市内空き店舗調査の実施
 - ・毎月 中心商店街（7箇所）、3カ月毎 商店街（16箇所）・市場（5箇所）
3. 販路・売上拡大、生産性向上を目指した専門家派遣事業の実施（伴走型補助金）
 - ・商品開発や改良、店舗レイアウトの手法及び原価率の見直しや生産性向上の方法の習得に係る専門家派遣（支援先小規模事業者：小売業4者、飲食業1者、延べ15回）
4. 小規模事業者持続化補助金の申請支援 24者（一般型19者・創業型5者）
5. 経営指導員等研修会への参加 5名（中小企業大学校旭川校）
6. 評価委員会の開催（8月4日、3月19日）

事業の成果・評価・見直しについて委員からの主な意見

- ・市内事業者が市民に知られていない現状があるため、市民との交流の機会にもなる応援販売会は非常に良い取り組みだと感じた。
- ・今回のような伴走型支援の実績が、また新たな出店のきっかけにもつながるため、同じ支援方法になるかは分からないが継続してほしい。
- ・金融機関としては、金銭面での支援だけでなく、提携している百貨店などの人脈も活用して支援したい。

- 北海道信用金庫本店のエントランスの一部を使用して小樽市内の商品を販売できないかと考えており、たると話し合いを進めていく予定のため、小樽商工会議所とも協力したい。
- 今回の伴走型支援を行った事業者の中には、小樽市の創業補助金を受けている方もいるが、補助金を受ける条件になっている商人塾やワンストップ相談窓口での支援を通じて、企業としての強さを身に付けてほしいと考えていた。市内の人口は減っているが、移住・創業支援は好調のため、今後も支援を続けていきたい。
- 今回のような、店側の費用負担がない支援であれば利用したいと考える人も多いのではないか。
- 経営に関して未熟な方も多く、副業として始めてすぐにやめてしまう方もいる。事業として続けられるように支援し、好循環を生み出していきたい。
- 高齢化が進む中では、客層に合わせた経営も重要となる。また、店頭販売だけでなく、「小樽」のブランド力を生かしたネット販売なども積極的に取り入れていく必要がある。
- 最近は飲食業や菓子製造、介護系の創業が多く、物件も自宅兼事務所として利用している方が多いように感じる。
- 飲食系は販売会などのイベントを開催しやすいが、介護系や理容・美容系などは他の支援方法を考えていく必要がある。
- 全国的には人手不足の声も大きいため、人材面の支援を必要としている企業もいるのではないか。